

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

安浦中学校区 校番32 学校名 呉市立安浦小学校

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童の育成 ～学ぶ、つながる 役に立つ～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) ○自校や郷土に誇りと愛着をもち、地域社会に感謝・貢献する児童の育成 ○様々な人々と協働して、主体的に課題解決に取り組む児童の育成 (ビジョン)(将来の学校像) 次の新しい時代を担う人材となる児童生徒には、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な未来の創り手となることが求められています。安浦中学校区は、小中一貫教育を通じて、ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童生徒を育てるという目標を共有し、地域に根ざした防災教育と児童生徒の主体的な学びを推進することで、持続可能な未来の創り手として必要な資質・能力を育てる学校を目指します。
----------	--	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○学校の使命である「学力の定着」と「社会性の育成」を基盤として、全ての児童生徒が安心して学び、成長できる学校風土を醸成し、学校文化の創造・継承や保護者・地域に信頼される学校づくりをすすめる。 ○安浦は平成30年7月の豪雨災害で大きな被害を受けた。そのため、自分の命は自分で守る力を身に付けるとともに、災害を風化させないために地域と連携・協働して防災教育に取り組み、ふるさと安浦の未来の創り手としての資質・能力を育成する。 ○中学校区として、学年相応の学力を定着させ、知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を育成することが課題である。よって学校教育目標やミッション・ビジョンの具現化に向けて、「防災教育の深化」「授業改善の推進」「個を大切にしたい支援の充実」に全教職員で組織的に取り組む。
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」「感謝・貢献」
-------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから1・2・3年目) 自己評価

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力	児童生徒の主体的な学びを実現し、確かな学力の向上を図る。 責	思考力・判断力・表現力を高める。	既習の学習や生活場面での「関連付け」や他者の考えを「比較」「分類」しながら取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める。	算数科の学期末テストの思考力・判断力・表現力で、70%以上の児童の割合	75%						
		学びの基礎・基本を定着させる。	常タイムで、AIDリルを活用した反復学習に取り組みせたり、「ぐんぐん教室」で、個に応じた問題に取り組みせたりして、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	算数科の学期末テストの知識・技能で、60点未満の児童の割合	10%未満						
** 防災教育	自分の命は自分で守る力を育成するとともに、地域の防災に貢献する。 責	保護者、地域と連携した防災教育を推進し、「自分の命は自分で守る」力を育成する。	防災週間や防災教育(マイタイムラインの確認・見直し、学年に合わせた取組)を各学級で行う。児童が実践したことを発表する防災フェスティバルを設定し、防災意識を高める。	「自分の住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合」と「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合」	95%						
* 豊かな心	感謝と貢献の心をもち、協働して取り組むことのできる心を育む。	仲間や学校、地域への感謝・貢献の心を育てる。	縦割り班活動や学校行事・地域への取組など、「協働」の心を育てる活動を推進する。	学級や学校・地域の役に立てたと言える児童の割合	90%						
		礼節と規範意識を醸成する。	1年間を通して「挨拶・くつそろえ」を徹底する取組を行い、「安浦スタンダード」を徹底させる。	学期末のアンケートで肯定的に評価した児童の割合	85%						
業務改善	教職員全員が健康で、やりがいをもって勤務できる環境を整備する。	タブレット等を効果的に活用し、児童生徒と向き合う時間を確保する。	タブレット端末についての校内研修を定期的に行ったり、会議時間を短縮したりして、毎日18時30分退校(水曜日は18時)を徹底する。	時間外勤務が年間平均45時間を超えない教職員の割合	80%						
いじめの防止	安心・安全な学校風土を醸成する。	全ての児童が安心して学べる環境をつくる。	週1回以上、全教職員で生徒指導交流を行い、児童の実態やいじめの早期発見に努める。	児童アンケートで「いじめはどんなことがあっても絶対にダメだ」と肯定的に評価した児童の割合	100%						

[k:評価]
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60